

(資料)

### どんどん橋の 山出来事

きのうからふりつづいた雨もすっかり晴れ上がり、すみきつた空が広がるよい天気である。

学校が終わって、ぼくは、いつものように正君たちと帰った。

とちゆう、どんどん橋の所まで来ると、水がいきおいよく流れていて、橋の所でうずをつくっていた。

川上の方から流れてくるゴミが、うずの所まで来てくるくると二、三回、回ったかと思うと、すうつとすいこまれて、橋の下をぐりぬけ川下の方へ流れていく。

それがおもしろいので、ぼくたちは、あたりにあるぼうきれや草をかきむしってうずの中へ流しこんで、だれのが早く橋の下をぐりぬげるかきようそうして遊んだ。

そんなことを何回かしているうちに、「このかさを入れたらどうなるかな。入れてみようか。」と、まこと君が言った。

みんなは、「流れが強いからやめなよ。」  
と言ったが、まこと君は、「大じようぶだよ。ぼくのかさはじようぶだから。」  
と言いながら、うずの中へ入れてしまった。

すると、かさは、うずの中へすいこまれていった。ぼくたちは、急いで橋の反対がわへ行ってみた。しばらくして、かさがわき出る水といっしょにうき上がってきた。  
「そうら、大じようぶだよな。」  
と、まこと君は、とくい顔で言って、かさをすくい上げた。

「正君、きみもやってみないか。」

(解釈メモ)

・雨上がりの解放感(こんぎつねのこんのような)がこのできごとのひとつの伏線。

・しかも一日の学習を済ませた学校帰り。いっそう心がはずむ。

・いつもと違う川。めったに見られぬうずが巻いている。思わずみんな、そこに駆け寄って眺める。

流れてきたゴミが吸い込まれていったん消えてしまい、川下の別のところからひよっこり浮き上がってくる。それが、いかにもミステリーめいて面白い。  
解放的な気分で何かやりたいな、と思っていたところにちょうどいい遊び場が見つかった。

・かきむしってでも流す材料を手にいれようとするほど、夢中になっている。

・やっているうちに、草ぐらいはあきたらなくなってくる。もつと違うもの、もつと、どきどきするようなもの。

・まことは、かさがどうなるか、考えもしないほど、夢中になっていたのか。それとも、傘の一本ぐらい、という感覚なのか。

まことは、ためらわず無雑作に投げ込む。自信があつたのか。見栄を張つたのか。「入れてしまった。」には、「あつ、ほんとに入れたしまった。どうなるだろう」というみんなの驚き・不安がある。

・どうなるだろう、という不安。

・かさが丈夫なことを証明してみせた、という得意さだけでなく、みんながこわがってできないことをやってのけたという得意さもある。

(授業のための覚え書き)

うずの面白い動き、イメージになるように。

きっかけのできごととしてこのまことの発言をとり上げる。  
「どうしてこんなこと言い出したんだろうね。」

「見ているみんなは、この時どんな顔してたかな。ここにこと楽しそうに見てる？」

「まこと君がここでとくい顔になった気持ち、わかる？何が得意だったの？」

と、まこと君がすすめたが、正君は、「ぼくはいやだ。」  
と言って、ことわった。

すると、すみお君が、  
「ぼくがやってみるよ。」  
と言って、自分のかさをうずの中に入れた。  
かさは、わき水といっしょにうき上がってきた。

ぼくは、どうしようかまよった。

——ようし、やってみせるぞ。

と決めて、かさをうずの中に入れた。そのとたん、大きな音がした。  
みんなは、橋の反対がわへ行ってかさを待ったが、いくら待ってもかさは流れてこない。  
ぼくは、大変なことになってしまったと思いつつ、流れてきてくれるといいなあ。  
——流れてきてくれるといいなあ。  
と心の中でいのちた。

「あつ、かさだ。」  
わき出る水といっしょに黒い物が見えた。ぼくはぼつとした。正君がすくい上げてくれたが、かさは、きれとほねがばらばらになってしまっていた。

ぼくは、だまって、ばらばらのかさをじつと見ていた。目の中にあついなみだがたまるのが分かった。  
みんなが、ぼくは、なぐさめてくれたが、何とも言えない気持ちで家に帰った。  
夜になっても、何だか夕ごはんがおいしく食べられなかった。

### ◎価値の主體的自覚の部分の展開

みんなのふだんをふりかえってみてね、まこと君、正君、すみお君、ぼく、この中の誰に一番近い気がする？

・正はきっぱり断っている。傘が傷むからとかでなく、そういう行為そのものを否定している感じ。

・すみおは、まことの成功を見て不安もうすれ、おもしろさがふくらんできた。断った正が弱虫に見える、自分ならやれるぞ、と虚勢を張る気持ちもあったかもしれない。

二つの心  
①ぼくもやってみよう。

・おもしろいから。  
・二人ともやって成功しているから大丈夫だろう。  
・正みたい弱虫になりたくない  
②やめておこう  
・これはいけない遊びだ。  
・傘が傷むかもしれない。  
・もし傘を傷めてしまったら家の人におこられる。

「やってみせるぞ。」

きつとやってみよう。強い意志。くじけそうな心をおしこんで。やることに踏み切らせた一番強い気持ちは何だったのか。  
・スリルへの挑戦

・しまった。後悔の念が一気に吹き出る。

大事な傘をなくしてしまった。怒られる。

今はただ、流れてきてくれ、とばかり念じていたところだから、思わず、「ぼつとした」。しかし、それは一瞬の気休め。

どういう涙か。  
・悲しい。壊れてしまった。  
・情けない。考えが足りなかった  
・こわい。怒られる  
・とほうにくれる。どうしよう。

このあたりは事実確認程度でさつと済ませる

「ぼくの迷う気持ちを詳しく考えてみよう。  
やってみようかな、と思う気持ちって何だろう。  
やめておこう、て思う気持ちは何だろう。」

「どうして、「やってみせるぞ」という気持ちになっちゃったんだろうね」

「ばらばらになった傘を見て、ぼくが泣けてきた気持ち、わかる？」